

訪問入浴介護のここがすごい!!

①身体的負担が少ない

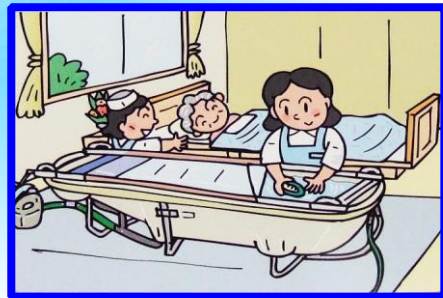


寝室でも入浴が可能ですので移動時にかかる身体的負担・体力の消耗が少なくてすみます。

ハンモック状のタンカネットに寝た状態で入浴し、水位は胸の高さ程なので水圧が少なく、心肺機能の低下した方でも負担なく入浴していただけます!



思いやり設計の浴槽!!



②3人での手厚い介護

看護師を含む3名でご利用者様の入浴介助を行うので健康状態の変化などにすぐに気づきやすく、対応することが可能です!また、ご利用者様を中心とした会話でパーソンセンタードケアを実践しています!



③徹底した衛生管理

おひとりの入浴提供が終わったら、使用した物品の洗浄・消毒を毎回実施いたしますので、交差感染の発生、感染症のまん延の心配はありません!



④訪問入浴介護でリハビリ効果

入浴中、筋肉が十分に温まった状態で、無理のない程度に関節を伸ばすお手伝いをし、リハビリ効果を導きます!

⑤褥瘡の改善を促します!

浴槽の中でお湯に浸かることで、除圧・保清・温熱による血行改善等の相乗効果から、褥瘡(じょくそう)治療の一助となります!

お風呂をあきらめないでください

たとえ寝たきりの状態になってしまっても、訪問入浴介護はできる限りの安全策を実施して入浴サービスを提供します。入浴がもたらす効果は身体的効果のみならず、精神的にも大きな喜びをもたらします。「お風呂に入りたい!」「入れてあげたい!」と思ったら、訪問入浴介護事業所へご相談ください。





日本人はやっぱりお風呂が大好き!? 海外との入浴文化の比較

「どの位の頻度で湯船に浸かりますか？」と聞かれたら、「基本的には毎日」と答える方が多いかと思います。私たち日本人にとってみれば毎日お風呂に入ることとはごく自然なことですが、その常識は海外ではどのようなものでしょうか。右のグラフは、日本人とアメリカ人の浴槽浴（湯船にお湯を張って入る入浴方法）の頻度を比較したものです。日本では、1週間で冬場に約5.3回、夏場に約3.9回浴槽浴を行うという統計が出ています。夏はシャワーで済ませる方もいるため浴槽浴は回数は減りますが、それでも2日に1回は湯船に湯を張って入浴を楽しんでいるようです。

それに比べ、アメリカでは、浴槽浴を毎日行う方は全体の1割程度です。月に1度浴槽浴をするかどうかという方が、全体の7割にも上ります。アメリカに限らず諸外国においては浴槽浴ではなく、シャワー浴の文化が大半です。

日本人の入浴好きを象徴するエピソードが東日本大震災の際にありました。それは被災地での入浴の姿です。下のような写真が国内でも報道がされましたが、実は同様の写真が海外では日本国内以上に報道がされていました。その理由としては、あの悲惨な大震災での被災の中、お風呂に入りたがる日本人の精神が海外の方には不思議にうつったというのです。それだけ日本人にとっての入浴は生活の中に欠かせないものといえましょう。



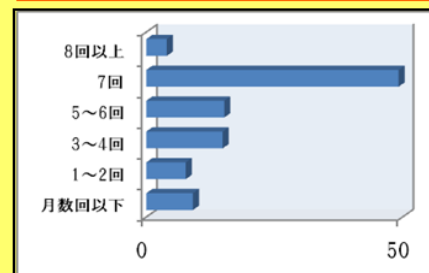
産経ニュース(2011.3.19)

要介護状態になったからといって、たまにの入浴ではご利用様はなかなか満足できません。さらに施設浴においては、どうしても一人ひとりにあわせた対応が困難となることから入浴におけるご利用様の満足度は低くなる傾向があるそうです。

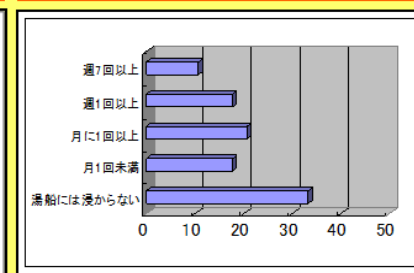
その点、訪問入浴介護であれば、一人ひとりのご利用者様の体調、好みに応じて入浴介護が提供されますので、満足度が高いこともうなずけます。

訪問入浴介護はどうしても週に1回を限度とするケアプランが多いことも事実ですが、できるだけ回数を増やすことによって、ご利用様の保清を行うだけでなく、QOLをも高めることを実現させた事例も多く報告されています。入浴を通じて得られる満足度は子どもも要介護者も同様です。いつまでも安心して満足のいくお風呂に入り続けたいものですね。

【日本】浴槽浴の頻度(回数/週)



【アメリカ】浴槽浴の頻度



●ツムラライフサイエンス調べ

●「入浴の解体新書—浮世風呂文化のストラクチャー」
松平 誠【著】小学館(1997/05/10出版)

訪問入浴介護へのお問い合わせはこちらまで